



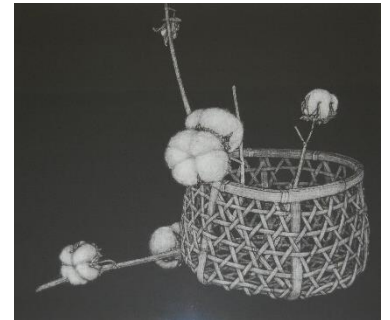
## たんあみ にわこ (1927~)

東京都出身。

母とみ<sup>え</sup>糸が氷上郡（現、丹波市）氷上町出身。

父は日本画家の<sup>たんあみいわきち</sup>丹阿弥岩吉。

子どものころから、絵をかくのが大好きだったにわこさんは、30歳のころに「銅版画（どうはんが）」に出会い「こんな世界があるのか」とびっくりします。銅版画を学ぶ中で「メゾチント」という方法を知ってからは、ずっとメゾチントの作品作りを続けています。



「わたの実」2002年

「銅版画」の作り方には、いろいろな方法があるんだね。



作品の黒いところを、せんようの刃物でほって  
いるんだよ。すごく時間のかかる作業だね。



表面画像上段右から 常岡幹彦「室生」常岡文亀「花鳥図」山本茂斗萌「弥撒」

下段右から 丹阿弥丹波子「花'07」中尾英武「礼拝堂」

きょうど げんだいにほんがてん  
郷土の現代日本画展

おやこ けいふ  
親子の系譜

令和4年4月9日（土）～5月5日（木・祝）



わたしたちといっしょに  
みていきましょう！



丹波竜のちーたん

とくめいたいし  
丹波市PR特命大使。うえびの  
楽しさをみんなに伝えてるよ。



寅吉（とらきち）せんせい

日本画や歴史にくわしい。寅年の本年は展覧会  
のナビゲーターとして登場。ちーたんとは古く  
からのおともだち。



父

## つねおか ぶんき (1898~1979)

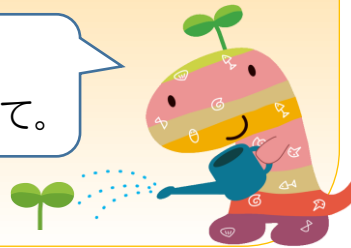
氷上郡 (現、丹波市) 柏原町出身。

東京美術学校 (現、東京芸術大学) に入学し、絵の勉強をしました。花や鳥などの絵が得意でした。



画家としてかつやくしながら、東京芸術大学の先生にもなったんだよ。

ぶんきさんのしゅみは、花作りでした。とてもいねいに花を育てていたんだって。



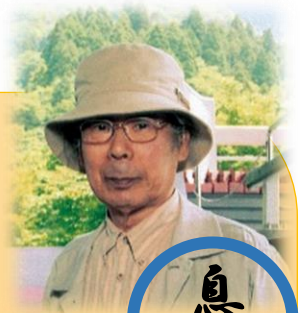
「たいさんぼく」1955年ごろ



「ほくとう」1987年

## つねおか みきひこ (1930~2015)

氷上郡 (現、丹波市) 柏原町出身。  
つねおかぶんきの息子。



息子

絵描きになるか悩んでいたけれど、高校生の時に感じた、「体の中を通りすぎて行くような霧 (きり) の流れ」をかきたいと思い、東京芸術大学に進学しました。



花の絵が上手だったけれど「お父さんのかき方に似ている」と言われたのがいやで、花をかくのをやめ、お父さんとはちがう風景画をかくようになったよ。

思えばあの時は、意地っ張りだったなー。



そういう時期ってあるよね～。ぼくは、みきひこさんの山や海の絵、迫力があってすきだよ。





旅先でスケッチするのも好きだよ。  
ほら、この写真のぼくもスケッチしてるでしょ。

## やまもと もとめ (1902~1985)

東京生まれ。  
柏原高等学校の美術の先生。



「展望台」1965年

父

東京美術学校（現、東京芸術大学）で学んだあと、美術の先生として柏原高等学校にやってきたもとめさん。多くの教え子が美術系の学校に進学し、その人たちは美術作家や美術の先生になりました。

もとめさんは先生をしながら、自分も東丘社（とうきゅうしゃ）という会で絵を学び続け、作家としてもかつやくしたんだ。



びじゅつ部だけでなく、マリオネット班の顧問こもんもしていて、人形きやくほんや脚本も手作りして地元でたくさん公演をしたよ。そのかつやくはNHKラジオでもとりあげられたんだ。



## なかお ひでたけ (1943~2021)

氷上郡（現、丹波市）柏原町出身。  
やまともとめの息子。



息子

京都市立美術大学（現、京都市立芸術大学）で日本画を勉強し、卒業後は父もとめさんと同じ東丘社（とうきゅうしゃ）で絵を学び、画家としてかつやくしました。

植野記念美術館うんえいいいんの運営委員としても、たくさんのアドバイスをもらったよ。



父もとめさん、息子ひでたけさん、ふたりとも京都の舞妓まいこさんや天使の絵をかいているね。親子の作品をくらべて見てみよう。



「薄暮」2014年

